

【幼保小連携通信】

保育課・学校教育課
幼保小連携担当

夢に向かって挑戦する子ども

令和8年度
9月18日 No.6

第1回幼保小連携研修

今年度より、2回の実施とした幼保小連携研修ですが、残念ながら1回目は台風の影響により、各地区での開催となりました。日程調整・研修の進行等ありがとうございました。小学校の夏休み期間を利用した地域が多かったためか、校長・園長・1学年全担任等、担当者以外の参加も多くあったようです。振り返りの一部をご紹介します。

「年長のときにできていたこと(要録の内容)が小学校で発揮できていないのは、今の教室がその子のもっている力を発揮できる環境になっていないのでは」という講師の言葉は、自らに向けられた問いとして重く響いた。1年生担当、幼保小担当だけでなく、私たち小学校教諭みんなが園への理解を深めていくことが大切だと考えた。

昨年度作成された架け橋期のカリキュラムの存在意義を再確認し、双方がその内容を深く理解し、共通理解のもとで指導・支援にあたることの重要性を強く学んだ。一方で、自校の現状を振り返ると、カリキュラム内容を学校全体で共有し、全教員が解して実践に落とし込むまでには至っていないという点が課題であると痛感した。

担任や担当が毎年変わると連携が積み上がりにくいが、自校の地区では、幼保小中連携推進協議会があったり、幼保小連携会議に副園長や教務も一緒に参加しているため、次の年への「つなぎ役」として動くこともできるのではないかな。

昨年度までの教職員の園体験や1年生との交流に加え、今年度は5年生が総合的な学習の時間で交流することになり、連携を深められる機会が増える予定。

園校ともに、担任や担当の考え方によって取組や連携が変わり、難しいところがある。



架け橋期のカリキュラムが園内に掲示されているが、正直、担当になり初めてその意味を知った。これではせっかくのカリキュラムもただの紙切れになってしまう。小学校へのつながりとなると、乳児担当には関係ないと感じてしまいがちだが、乳児から土台を積むことで、5歳児の力が発揮されることを理解した。

架け橋期カリキュラムは作成済だが、十分に活用する、振り返ることができていなかった。協議では園の育ちだけでは見えない長いスパンでの発達に目を向けることができた。

これまで連携園が足並みを揃えて幼保小連携会議を積極的に行うまでには至っていなかったが、今回の協議で園の垣根を越えて幼保連携にも取り組もうとする姿勢をお互いに確認できた。

学びのあり方を考えるには、園校それぞれの保育観や教育観を見直すこと、実現持続可能なものにしていくためにカリキュラム内容を全体で考えることが大事である。

昨年度の参観や協議を踏まえて小学校では今年度低いテーブルで過ごすことができるコーナーを設置したと聞き、とても感動した。

幼保小連携を担当者だけの取組にせず、小学校との交流や情報交換を形式的なもので終わらせず、実際の子どもの姿や育ちをもとに対話し、互いの教育・保育を理解する機会としていきたい。